

## ひらめき箱(意見・要望等)対応状況

番号	7	開封日	平成26年6月2日
ご 意 見			
観光客へのアンケート実施について			
<p>テレビで「YOUは何しに日本へ」という番組があります。 この番組は、日本に来ている外国の旅行客に旅行の目的を聞き、場合によってはその旅先まで密着取材をするというものです。 これを人吉の観光客を対象に使えないかと思い提案します。 すでに実施されているかもしれませんが、二番煎じならば一笑に付して下さい。</p>			
例えば、表題 『あなたは何しに人吉に』			
①今回の旅行の目的（観光・仕事・その他）			
②移動の手段（汽車・車・バス・その他）			
③人吉の印象			
④旅行の日程			
⑤旅行の人員（大人・子供・男女・年代別）			
⑥旅行の予算は（内お土産代は）			
⑦人吉へは何泊目か			
⑧人吉の前の宿泊地は			
⑨この後の旅行地は			
⑩次の宿泊地は 等々			
<p>アンケートは街頭や駅でするもよし、ホテル等と話し合っ食堂やロビー等に行き直接聞く方法もあると思います。 毎月実施して統計をとるのも、いいと思います。</p>			
<p>このアンケートにより、今後の人吉への観光客の増加につなげ、人吉の観光行政に役立てられたらと思い提案しました。</p>			
（投函日 平成26年5月15日）			

## 回 答

このたびは、本市観光についての貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。観光客へのアンケート実施について、観光振興課がお答えします。

本市は、重要な施策の一つとして「観光で食べられるまち」を揚げ、観光振興に関して各種イベントの企画運営や情報発信により人吉観光のPRを行っています。

今後も魅力ある観光のまちにするためには、観光に関連する団体・企業をはじめ、地域住民の皆様と連携して観光素材の掘り起こしや磨き上げにより、おもてなしの心で温かく迎え入れるまちづくりを推進する必要があります。

そのためには、ご意見をいただいたアンケート等による分析を行い、お客様のニーズに合ったイベント企画運営や情報発信を計画することは、非常に重要な施策として考えられます。

現在観光振興課では、観光施設や宿泊施設に依頼して宿泊客数や日帰り客数などの統計調査を毎年実施しております。また、今年の日本文学館人吉お城まつりや100円商店街では、地元の高校生にお手伝いいただき聞き込みアンケートを実施しました。その他、昨年はインターネットを使用したマーケティング調査を実施し、人吉球磨エリアの観光資源に関する認知度・関心度について現状把握を行っております。

今後も、お客様に更に愛される地域になれるよう、またお越しいただけるようなまちづくりに取り組んで参ります。

観光振興を進めていく中で魅力向上のための貴重なご意見として参考にさせていただきます。ありがとうございました。

## ひらめき箱(意見・要望等)対応状況

番号	8	開封日	平成26年6月2日
ご意見			
<p>洪水警報サイレンの件</p> <p>5月19日午前11時30分に、2回洪水警報のサイレンが鳴りました。朝方、雨が降ったのでダムが放流したのかと思い、市の防災安全課に聞いてみましたところ、「たぶん、訓練のサイレンだと思います」旨でした。事前に訓練のサイレンだということを、「市民に広報してましたか？」と、訊ねたら「してません。市房の方のことなので、申し訳ありません」という回答でした。総務課にその旨問い合わせましたら関係部署に連絡してしっかりと対応します」と言うことでした。この問題は、隣国で行われている人命にかかわることなので、早期に何らかの回答がほしいと思い、「暮らしの相談室」に連絡しましたところ、市房ダムは県の管理でやっていますので、「県の方に問い合わせ頂ければ」という回答でした。私たちは市民であり県民であり国民でもあり、命で言うと一個人であるのですから、「訓練の警報」から責任を、回避されたら困ります。市のほうで、出来ないなら私共のほうで、動きます。</p> <p>(投函日 平成26年5月20日)</p>			
回答			
<p>防災安全課からお答えいたします。</p> <p>5月19日の市房ダムの訓練に関しましては、市房ダム管理所から防災安全課へ事前に訓練実施の連絡を受けておりましたので、お電話で曖昧にお答えした点につきましては、まずもってお詫び申し上げます。</p> <p>今後の対応につきましては、訓練の実施については市のホームページでお知らせするとともに、訓練の日程が早い段階で確認できるように市房ダム管理所との連絡調整に努めまして、できる限り、広報ひとよしでもお知らせしていきたいと考えております。</p>			

## ひらめき箱(意見・要望等)対応状況

番号	9	開封日	平成26年6月2日
ご意見			
<p>ボランティア活動について</p> <p>この件は「ひらめき箱」を通じて、記録したいと思いましたが、あえて投函させていただきました。社協にボランティア登録をさせて頂いている一市民です。先日、教育委員会からボランティア活動支援協力の今年度の予定表を頂きました。内容を見たら、二中校区のみでしたので、担当部署に行きまして、「何故一中校区の予定表は入ってなかったのですか」旨お尋ねしたところ、「一中校区は別になっています」との回答で、一中校区の担当者から連絡しますとのことでした。一週間立っても連絡がなかったので、「くらしの相談室」に問い合わせたところ、「一中校区は教育委員会では把握していないので、一中校区のボランティア活動をされたいのであれば、各学校に問い合わせてください」との回答でした。ボランティア登録をしているのに、自分で探してくださいと、受け止めました。しばらく、ボランティアの活動は中止させて頂きたいと思えます。</p> <p>「社協」と「教育委員会」「くらしの相談室」の見解を、良くわからない市民に分かるようにお答え頂けたら幸いです。</p> <p>(投函日 平成26年5月21日)</p>			
回答			
<p>教育委員会からのご説明をさせていただきます。二中校区と一中校区のボランティア対応の違いを十分に窓口で御説明できず申し訳ありませんでした。まず、二中校区につきましては、社会教育課に地域コーディネーターを置き、登録いただいたボランティアの方々を学校からの支援要請に応じて手配をする人吉市学校支援地域本部事業を行っております。その運営は、二中校区の4校（人吉西小、西瀬小、中原小、二中）の学校長、PTA会長、ボランティア代表等の方々に組織した学校支援推進協議会の中で協議しながら進めております。</p> <p>一中校区につきましては、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むことを目的として、各学校単位で学校運営協議会を設置しております。</p> <p>二中校区の推進協議会と一中校区の運営協議会に違いがありますのは、これまでの各学校区での地域連携の取組に違いがあるためです。</p> <p>学校支援推進協議会も学校運営協議会も新年度が始まり、新しい体制で動き始めたところです。相談者の方の連絡先につきましては、教育委員会で承りまして、第一中学校の担当者にもお知らせしてあります。学校運営協議会の組織や計画づくりが終わり、活動が始まりましたら、学校の必要性や要請</p>			

によって、改めて御連絡があることと存じます。学校におきましても教育委員会としましても、地域の皆様方の御協力には感謝しているところでございます。地域の皆様と学校が情報を共有し、相互に連携していくことが児童・生徒の健全育成にもつながっていくと考えております。今後とも一中校区におきまして、各小中学校への御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。

## ひらめき箱(意見・要望等)対応状況

番号	10	開封日	平成26年6月2日
ご 意 見			
<p>鉄道ミュージアムについて</p> <p>議会便り、見せて頂きました。「鉄道ミュージアム」作るのに2億円以上かかるという内容でした。当然、入場料で償却されるのですが、年間何十万人の入場を予定されているのか、お聞きしたいと思います。素人の単純計算でも、維持管理、人件費だけでも一日最低でも500名から1000名の入場者は必要になると思います。それに応じる魅力的な「館」を作れるのでしょうか? 「鉄道ミュージアム」ありきたりなものであれば、すでに数多くあります。2番煎じ3番煎じで、おそらく入場者の期待は出来ないと思う市民です。</p> <p>歴史遺産との兼ね合いもあるのですが、CとかDは各地で走っています。真剣に考えるのなら、肥薩線でしか走っていなかったEを目標(動でも静でも構わないと思います)に、世の中の目を引くような新鮮なものにするのが、市のためですし、日本のためでもあるのです。そこまで、出来ないのであれば、予算を最新のものに使っての集客及び観光の資に当てるべきです。ドイツ国から派遣された調査員が、日本の中でわが町を選んで、住民生活環境の調査を長期にわたり、研究しているのは当然ご存知のことと思います。今回の調査が将来の人吉にどう繁栄されるのかは未知数ですが、何かしら国際的な包括された新しい動きが雲の上に見え隠れしています。</p> <p>赤字をどう克服するのかの心配はさておき、自治体としての斬新な動きも早急に必要のはずです。</p> <p>市としての、今回の「鉄道ミュージアム」、自信はいかほどのものか、市民に分かるようにお答えいただければ幸いです。</p> <p style="text-align: right;">(投函日 平成26年5月25日)</p>			



(仮称) 鉄道ミュージアムについて、自治振興課がお答えします。

はじめに、(仮称) 鉄道ミュージアムの建設に至っては、第5次人吉市総合計画の中で、「肥薩線は、比類なき価値を持つ鉄道遺産」と位置づけ、より多くの市民に対して、教育・啓発等を図っていきながら、歴史遺産の保護に協力する機運を醸成することによって、地域資源を未来へ継承していくものとしておりまして、(仮称) 鉄道ミュージアムはその情報発信の中核となるものであり、この目標を達成するための1つの手段と考えています。

肥薩線の魅力は100年もの間風雪に耐え、今もそのほとんどが当時の姿のまま残っている路線、鉄橋、トンネル、木造駅舎などの構成施設ですが、八代から隼人まで124.2kmの中には一部の関係者以外にはほとんど知られることなく、それでも肥薩線を支え続けている鉄道施設もあります。これら地域の宝を紹介し、こどもたちを通じて次の世代へ継承していくことが私たちの責務と考えます。

鉄道に係る品物の展示・紹介をする一般的なミュージアムでは、鉄道会社が運営に関わる大規模なミュージアム等には到底及びませんので、観光客のみならず地域の子どもさんから大人の方まで、鉄道遺産に触れながら憩いのひと時を過ごす場として気軽に足を運んでいただく空間を整備することが、私たちがお伝えしたいことの周知・拡散につながるものと考えています。そのため、入場料については無料を前提に考えているところです。

しかしながらご指摘のように当然維持管理の支出が見込まれます。よって、一部の遊具施設の有料化や商業施設を備え収入を得ながら、できるだけ支出を抑える努力は必要です。

また、利用者が少ない時間帯等の有効な活用等についても知恵を絞っているところです。人が集まれば次への展開も考えられます。皆様から長く愛される施設となるよう更なる検討を重ねてまいりますので、市民の皆様にも盛り上げていただくようご協力をお願いする次第です。

次に機関車の件ですが、ご意見の中に「E を目標に」との記載がありました。動輪5軸の機関車4110型若しくはその後継機のE10型のことだと思えます。

4110型は大正から昭和にかけて長いもので30年をこえて肥薩線で活躍したようですが、その後のE10型は半年ほどでD51に代わっていったようです。当時を知る人が少なくなったことやD51が有名になりすぎて、今となっては5軸の機関車が人吉を走っていたことを知らない人がほとんどだと思います。静態保存の数も少なく他の鉄道博物館等所有となっており、運よく入手できたとしても動態保存となると肥薩線を離れていった理由の1つであるレールへの負担の問題などからD51より更に困難と思われそうですが、話題性は申し分ないでしょう。

肥薩線世界遺産推進室では車両の調査までは着手していませんが、文献調査等で入手できた情報・写真等があれば紹介してまいりたいと思えます。